

広土会新聞

第12号

2008.3.1 発行

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

巻頭言



広土会会長
島 重章

土を築き木を構える技術が土木の技術として現れたのは、縄文から弥生期の数万年という長い時間の中で私たちの先祖が定着しはじめた時代に遡ると言われています。安全な生活を行ううえで土堤を築き木柵をめぐらした中で集団生活を始めたのが、人類の生活形態の始まりであると、最近刊行された歴史書「列島創世記」の中に読み取れます。改めて興味を引くところです。古代人たちの生活様式が竪穴式の住居の時代であっても、生活全体を守るための手段は土と木による安全性の技術であったことを、改めて土木技術が生活の安全を守る手段であり、今日まで受け継がれてきた本来の目的であることを再認識しているところです。

しかしながら、その技術は国策の流れに大きく影響を受けてきました。特に明治時代以後は文明開化と富国強兵のための技術の流れが台頭し、20世紀の戦後は、復興と高度成長期に従ったものづくりを国策として行ってきたといえましょう。そのインフラ整備が中央集権的に機能した結果、土木の拠りどころが無くなり、公共事業批判や土木系の進学減少による学科離れが起きてきたと思われます。

近世の土木は、国策に基づくインフラ整備

を進展させることにより、高い技術力を培い、生活を便利に快適にしてきました。上下水道や道路、橋梁や鉄道など、インフラの恩恵を受けて育った若い世代は、そのインフラが自分たちの将来と共にどのような道をたどるのか、インフラを維持していく技術の必要性を学ぶ場も無いなかで、土木技術そのものが多くの門外漢にされているようではない。

人々の生活が技術力なくしてインフラの維持整備ができようも無いことは、身近な話題として最近の報道の中にも上げられています。送水管の破断による送水の停止と復旧や、集中豪雨時のダム貯水容量の恩恵による洪水防止や、強震時の新幹線の停止による大事故の防止など、私たちの生活安定のためのインフラの維持管理が現状ではなされていることの大切さを、若い人々に啓蒙することが必要です。

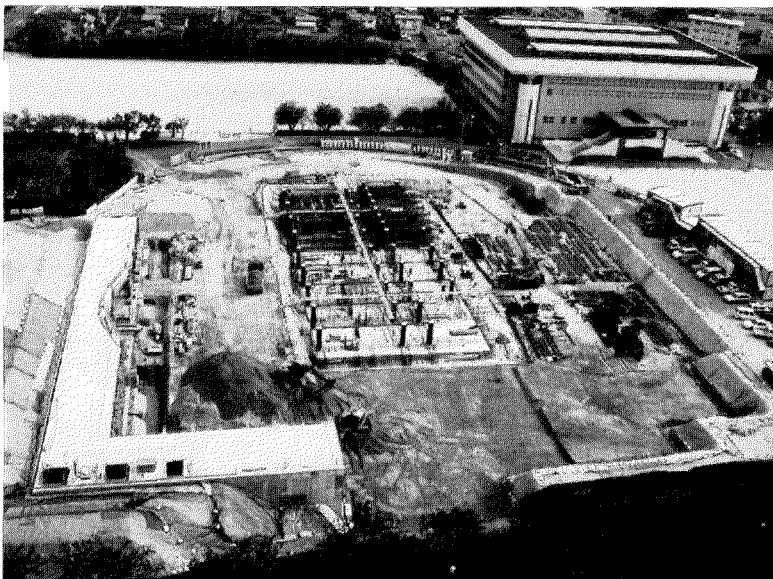
わが国に必要とされるは、災害列島としての自然の猛威に対抗することのできるインフラ整備により、被災に苦しんでいる人々を救い、安全な生活を送れる社会を目指すことではないでしょうか。今日これまでに国を中心とするインフラ事業の批評批判が行われておりますが、私たちが生きているという実感を持てる、安全な国造りのためのインフラ整備を目指すことが必要であると考えられます。

広土会は、ここに創立40周年を迎えました。広土会会員4,000名の諸君とともに、40周年の

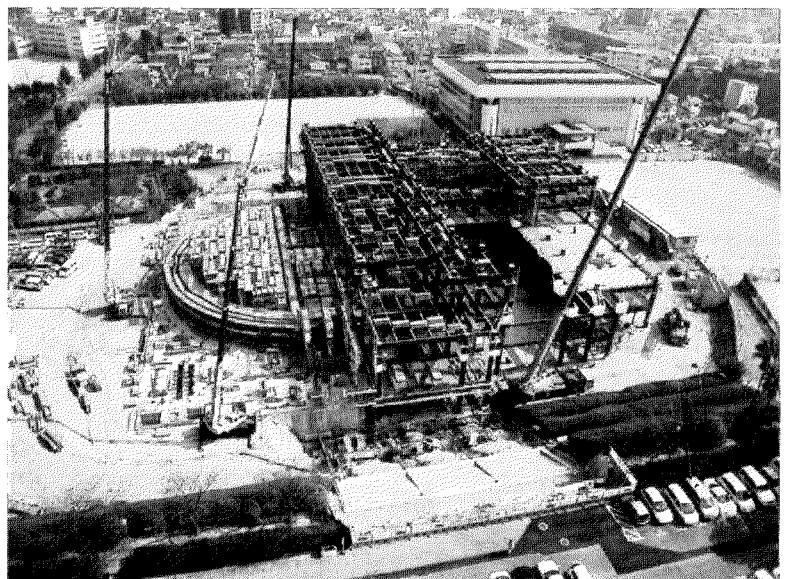
慶びを分かち合うことはご同慶の至りであります。この会の母体は広島工業大学工学部土木工学科が創設期にあつて、その後、建設工学科、都市建設工学科と変遷を繰り返してきました。建設工学科の時代は、社会建設工学科と建築工学科の2分野からの卒業生を輩出しておりましたが、昨年度からは、従来の土木工学を学んだ卒業生の同志による広土会として、再認識され再出発したところです。

各支部の総会へ出席させていただきますと、これまでに各支部を代表し、指導してこられた支部長各位が交代をされました。それに伴い各役員の方々も若い人を交えた支部組織が構成されました。このことは、これから継続していく広土会の新たな歴史であり、頼もしい限りであります。広土会会員諸氏は、広く多くの情報を分かち合い、人々の生活に密着した事業へと展開されていく公共事業のなかで、高い技術を持った、人々に愛される技術者として世の中に役立つ、活力ある技術者を目指していただきたいと思います。

最後になりますが、会員の皆様方のますますのご発展とご健勝、ご多幸を祈念し、巻頭のごあいさつと致します。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



新講義棟建設中（2007年10月末）



新講義棟建設中（2008年3月初旬）

新任のあいさつ



就任のご挨拶

都市建設工学

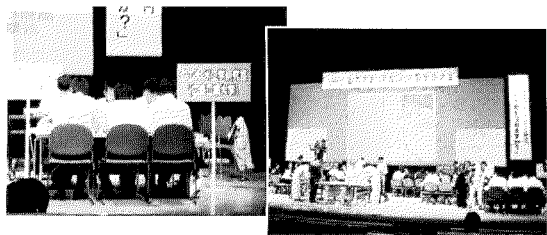
今川 朱美

「タイギイ」がエライ（シンンドイ）という意味で、飲みに行った後ラーメンではなくお好み焼きを食べに連れて行かれることにも驚かなくなりました。でも、広島流車運転法は、なかなか習得できず、方向指示を出さない車が恐ろしい。そんな広島に住むようになって1年になろうとしています。これまで、留学していた期間を除けば、ずっと京都都市圏に暮らしていましたが、縁あって広島に参りました。専門は都市・地域計画です。

大学にとっては厳しい時代に教員となり、本来の研究・教育業務のみならず、学科存続のための創意工夫と活動を求められ、身が縮む思いです。受験人口の激減の中、受験生獲得が求められています。私は、大学がそして学科が生き延びるか否かは、卒業生の方々がどのように活躍くださるかによるものと感じています。大学は言うまでもなく、卒業生の質で評価されます。卒業生を迎え入れた企業から信頼を得、「就職に強い」という世評を得ている本学科の本質が何であったかを見定め、しっかりと受け継いでいきたいと思います。教育を通じて、学生との関係の中で、自分を磨き、達成感により自信を獲得し、人間的成長を果たすことが、「人間力」のある学生を世に送り出すことにつながります。それこそが、本学科のそして本学の発展につながると思います。

広土会のメンバーは現在約4千人。卒業生が、誇りを持ち愛情を注げる学科としてあり続けるためには未来に目を向けた対策が必要と、智慧を絞っていますが、そう次々と新たな創造ができるものではなく、苦しい思いをしています。この1年をふりかえると、都市建設工学科のパンフレットを作成し、そこに活躍されているOGを中心に紹介するコーナーを設けたこと。これが学科のこれまでとこれからを繋ぎきっかけの1つになったと思います。少なくとも、私がこれまでの学科の様子を知るきっかけになりました。それから、学科のロゴマークを作成しました。CIデザインならぬCUIデザインということで、様々なイベントに展開し、その存在が認められつつあります。次の1年で、私たちはウェブサイト（HP）の充実ができればと考えています。そうすれば、卒業された方々とも、ネット上で繋がることができると考えています。完成時期も未定ですが、ネット検索時にでも、私たちのことを思い出されしたら、サイトの様子も覗いてみてください。

広島工業大学の一員になった以上、今後も工学界で輝く大学であってほしいと願います。この思いは、広土会の皆さんと同じだと信じて。



在学生だより

防災危機管理コンテスト 「図上訓練部門」で 本学のチームが優勝！

福山 慶高（4年）

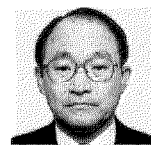
防災危機管理コンテストは、「あなたの街を守れますか？」をテーマとした土木学会全国大会の特別行事に2007年9月13日、広島大学東広島キャンパスのサタケメモリアルホールで行われました。防災危機管理コンテストは、土のう積みに関して競い合う実働演習部門と水防組織の活動計画について考慮し競い合う図上訓練部門の2種類の競技があり、その中でも私たち石井研究室の学生6名は図上訓練部門に参加しました。図上訓練部門では仮想の地域が設定されており、その地域に集中豪雨が発生した際の災害発生前におけるリスクマネジメントと災害発生後におけるクライシスマネジメントの両面を考えました。リスクマネジメントに関しては、災害発生場所等における事前の情報収集、避難所の決定、住民への情報の伝達方法、またその時の伝達内容、寝たきりの方やお年寄りの方といった自ら避難を行うことが困難な災害時要援護者の対策を考慮しました。その際、如何にして地域の住民の方々に安全かつ迅速な避難を行ってもらうことができるのかを考えながら、ハザードマップを用いて避難経路や情報の伝達経路の検討を行いました。またクライシスマネジメントに関しては、限られた人員や資材を考慮しながら、水防（消防）団の出動から水防工法を開始するまでの具体的な作業手順の考慮や災害発生の危険性が高く応急対策が必要な場所とその場所で行わなければならない水防工法の選定を行いました。その際、水防（消防）団員の安全を考慮するため作業場周辺に見張りを配置させることや素早く水防工法を行い被害の軽減に繋げるため資材の入手が容易かつ作業が容易である工法の選定を行いました。私達、石井研究所の6名は夏休みの1ヵ月間、実際の地図を用いながら6名それぞれが考



防災危機管理コンテスト 図上訓練部門の結果		
優勝	広島工業大学	193.5
準優勝	防衛大学校	192.0
第3位	東京大学	181.5
第4位	高知高専	177.0
第5位	京都大学	176.5

えてきたことを発表し議論を行うことで6名全員の考えをまとめ、模擬練習を行いながら本番に備えていきました。その結果、リスクマネジメントに関する問題では満点を取ることができ、総合的に優勝という結果に繋げることができました。今回、防災危機管理に参加したことで、「迅速性」と「正確性」の両方の重要性やリスクマネジメント及びクライシスマネジメントにおける具体的な作業手順や注意事項といった考え方を得ることができました。また、実際の現場で行う作業内容について学ぶことができ私達にとって貴重な経験となり、今後はこの貴重な経験から得られた防災知識を生かし、社会に貢献していきたいと思っています。

支部だより



関東支部だより

関東支部長

西尾 修一（5期生）

昨年2月10日（土）例年通り東京ガーデンパレスにおいて第19回関東支部総会を、1期～4期の方9名、5期～10期の方5名、11期～20期の方6名、21期～40期の方4名の計24名の参加で行うことができました。

4期までの方の熱い思いがそうさせるのか、例年通り1/3以上を占める出席でした。

当日は、開催日が大学の入試日と重なり先生方をお招きして大学の状況等のお話を聞く機会には恵まれませんでした。土肥口氏（11期）のすばらしい司会で橋本副支部長（6期）以下役員の披露を行ったことを覚えています。

又、開催に向けて会員との連絡を取合う中で若い会員より、「開催日が土曜日だと仕事もあり参加できない。」という意見もありました。

開催日を決める条件の一つとして考慮すべき事項であることに気づきました。

07年問題といわれ団塊の世代が2007年から定年を迎え始めることによる、労働人口の急激な減少を心配されたものですが、最近の話題としては、どちらかというと少子化の問題がよりクローズアップされ又その影響も顕著になってきております。

去年の広土会総会及び支部長会議に私は出席できませんでしたが、代理出席された橋本副支部長の報告書によると、少子化、社会基盤整備を担う土木の人气が低迷していること等により今後は、「40周年を期に、在校生を広土会より切り離し会長職を卒業生の中から選ぶことも検討願いたい。」という提案もあったと聞いております。

私個人としては、後者については条件付で異論はありませんが、前者については言葉の印象から今後、実質に今以上に広土会へ新会員が入会しない、入会しづらい、入会しても連絡がつかないことにつながるようでしっくりしない印象を受けました。

この問題については、今年の記念総会の時までには結論が出ていることと思います。いずれにしても私の役目は、関東支部スタート時の諸先輩方の気持ちを一人でも多くの若い会員に引継げる支部総会という場を定期的に提供していくことだと思っています。

最後に全国の広土会会員の皆さんが、健康に留意され益々活躍されることを、そして今年の広土会40周年の区



大地と大海が私たちのフィールドです

AOKI

総合建設業

株式会社 青木組

代表取締役 瀬尾 政彦

本社 〒722-0035 広島県尾道市土堂二丁目8番14号(青木ビル)
TEL(0848)23-3131(代) FAX(0848)22-8371
東京本店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町三丁目四番二号
KDX茅場町ビル
TEL(03)3665-9621(代) FAX(03)3665-9622
営業所 広島・川崎・東北

総合建設業



占部建設工業株式会社

代表取締役 占部 誠

本社 〒720-0816 福山市地吹町18番16号
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目8番3号
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目22番4号
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園4-4-44
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社 栗本

代表取締役社長 古川 幸雄

〒733-0035 広島市西区南観音7丁目14番20号
TEL(082)293-8500 FAX(082)295-8231

【支店】安芸高田
【営業所】岩国・呉
http://www.kurimoto-gr.co.jp

ISO 9001/2000 認証取得

切りが丁度十二支の子年とも重なり新たなスタートの年となることを祈念して支部だよりと致します。



沈思黙考

関西支部

川上 佳史（５期生）

卒業して35年目を迎える、５期生の川上です。自分では若いつもりでも還暦に手が届く年になり、年齢をつくづく実感している今日この頃です。先般も、35年ぶりに同期の親友と再会し、旧交を温め感激ひとしおの機会を得た。この時も、親友とはつい最近別れた気持ちでいたが、顔を見つめ会うと時の流れをつくづくと感じたしだいである。

自分が社会人になってからを振り返って見ると、広土会や同期の友は非常に大切に、心強いものであったし、今でもそうである。

私は民間会社に勤務しているが、発注者側との打合せで苦勞していると、その役所に同期生がたまたまいて、助けてもらったことがあった。また、工事を進めるうで、問題が発生し悩んでいた時、発注者側の立場ではどう考えどう対処するのか、公務員の先輩の所に相談にいき助言を頂き解決することができた。受注工事の中で付帯工事の費用や工程が非常に厳しく業者が見つからない時、同期の友達に相談し助けてもらった事もある。さらに、わたしの仕事と同業の同期生や後輩とも不定期ではあるが集まり、悩み事を言い合いまた励ましあい、後日仕事で助け合った事が、今の私があると思っている。卒業生の皆様も同様な経験をされて来られたと思います。

我々を取り巻く建設業界は、２年前の独占禁止法の改正と品質確保法の施行を契機として、コンプライアンスの徹底に取り組む中、厳しい競争下で経営悪化が顕在化してきている。また建設業界はかつて経験したことのない大転換期を迎え、再編・淘汰は不可避という厳しい現実と直面している。この厳しいトンネルから脱出するには多くの試練を乗り越える必要がある。そのために、コスト削減ばかりに比重をかけていると、人的倒産に陥る。建設産業を支えるのは「人」である。将来を担う人材の確保・育成を無視するわけにはいかない。将来の建設産業を担う優秀な技術者・技能者の確保・育成が喫緊の課題となってくる。

このような状況の中で、学生の建設離れ防止やイメージチェンジで学部名称から土木の字が消えてしまっているのは、非常に寂しい限りである。工大もしかりである。しかし、嬉しいのは、広土会に「土」の字が有る事である。土木の精神を引き継ぐ広土会が、工大の卒業生や学生がこれからの建設産業を担う技術者の育成機関となることを願うしだいである。背伸びをした考えかもしれないが、大志を持つことが広土会の会員に必要である。そのためには、会員の皆さん、広土会本部と各支部の関係を更に密接なものとし、会員の志気を高め、資質を上げるために頑張りましょう。

ところで、関西支部の行事ですが、４月の第２日曜日に西宮市の夙川で花見を開催します。(阪急神戸線の夙川駅に午前11時集合) また９月には総会を開催しますので、広土会会員の繋がりを一段と密接にし、志気と資質を高めるために、関西在住の方の出席をお願い致します。

広島支部活動報告

広島支部長

森川 泰雄（７期生）

平成19年３月の広土会広島支部役員会において、第４代目の支部長に就任しました森川と申します。

これまで諸先輩方が築かれた輝かしい伝統を継承し、広島支部会員が一丸となって、より一層すばらしい支部となるよう全力で頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

さて、平成20年、広土会は創立40周年を迎えます。土木工学科から建設工学科、都市建設工学科へと変遷はありましたが、われわれの卒業した学科は40年にわたり4000人以上の卒業生を輩出してきました。卒業生は、建設業界のみならず、多様な業界で活躍されています。現在、広島支部は、広土会本部、各支部と協力し、広土会創立40周年記念事業の開催にむけて準備を進めております。

以下に広土会創立40周年記念事業の概要を発表します。

開催日	平成20年 7 月19日(土)
場 所	リーガロイヤルホテル広島
内 容	記念講演会 17：30～ 祝賀懇親会 19：00～ 記念誌発行

実行委員会	
実行委員長	森川泰雄（7期）
副実行委員長	宮川裕壮（7期） 原田忠明（9期）
総務部会	佐々木和明（7期） 廣本忠典（15期） 竹内秀一（18期） 石田秀文（23期） 吉本賢一（25期）
講演会部会	大野平和（8期） 森島正二（8期） 宮田 聡（9期） 平加照彦（10期） 伊藤岳司（16期） 崎 将智（27期）
祝賀会部会	藤光孝司（7期） 小林俊三（7期） 大石光司（8期） 田中譲治（11期） 橋国雅文（13期） 小田 徹（14期） 舩繁昌志（17期） 牧野克真（26期）
記念誌部会	大利正生（8期） 長谷山弘志（12期） 宮中敏浩（15期） 村中昭典（16期） 広津元基（21期） 新田 勉（26期） 堀内 眞（7期） 古田幸寛（28期）
会 計	石井卓郎（2期） 河原不二夫（3期）
会計監査	島 重章 皆田 理
顧 問	景山敏則（1期） 竹内勝喜（1期） 狭戸尾浩（2期） 三浦勝行（3期）

準備段階であり、詳細な部分はこれから徐々に決定していきますが、開催日、開催場所は確定です。

昨今、建設関係に携わる技術者にとって厳しい環境が続いています。

公共事業の削減、維持管理時代の到来、気候変動に伴う外力の増大、団塊世代の退職等による技術伝承への不安などなど。

しかし、このような状況下で、広土会の目的である建設技術の発展に寄与することで、色々な課題にも対応できるのではないかと考えています。

そのためにも40周年記念事業を盛況に開催する必要がある、会員の皆様の協力が不可欠です。皆様のご協力をよろ

しくお願いいたします。



近況報告

阿讃支部

小野 直幸（５期生）

このたび、年末に松山先輩より広土会新聞への執筆の電話を頂き紙面を汚すことになり、こんな人生を送っている者もいると思って頂ければ幸いです。

一九七三年（昭和48年）に5期生として卒業後、早々35年を経過しようとしております。卒業後は郷里（香川県）に帰るとの思いで扶桑建設工業㈱に入社して現在にいたっています。

入社以来、工事に配属となり現場で施工管理をする事となり「水」との長い長い一歩が始まりました。

最初の現場は鳴門市北島浄水場でした。吉野川の北岸に位置し高架水槽・炉過池など浄水場拡張工事でした。今でもふと大きな川を見ると当時が思い出されて、なつかしく思います。二ツ目は岡山県内の水道工事でした。最初の準備から入りましたが、工事の種類が多いのと、材料、資材の種類が多いのに驚き、又名前と品物とが一致しなくて大変苦労しましたが、家で水が出た時には、一つの工事が終わったと感動が有りました。

その後、四国4県、中国4県、岩手県と各地にて、勤務しています。

最近では四万十川、自然の残る川として知られている四万十市西土佐にて約一年間、水道工事を行い、車での移動は川沿の道で日本鹿・タヌキ・サルなどに出会う自然の中でした。西土佐では地震対策として送水管にポリエチレンパイプを使用しました。

現在は重信川が横に流れる松前町にて水源地の改修工事を行っています。ここでは地震対策として導水管にNS鋳鉄管を使用しています。材料も新しく、又多くの種類があり、人生は「一生勉強」だと思います。

50歳代になり体力は40歳代より落ちた様に思いますが、一歩一歩前へ向って進んでいきたい。



広島西支部報告

広島西支部長

原田 忠明（9期生）

広土会会員の皆様におかれましては、各方面でご活躍され、益々で健勝のこととお慶び申し上げます。

広島西支部は、合併後の廿日市市（廿日市市、旧大野町旧佐伯町、旧宮島町、旧吉和村）及び、大竹市在住の二百数十名の会員による支部で、昨年は、２月に新年会を兼ねて総会を開催し、今年は、広土会創立40周年の記念事業で広島支部の全面支援を行うことが決定しており、４月に、協力の会議を兼ねて総会を実施する予定であり、一人でも多くの会員に参加を頂きたいと思っています。

月日が経つのは早いもので、一昨年、私たち9期生も広島工業大学を卒業して30年目を迎え、同期会に、鈴木先生、島先生、二神先生をお迎えし、遠方からの参加の同期生を含めて三十数名が集い、学生時代や近況など多くを語らい、楽しい時間を過ごさせて頂きました。この紙面を借りて、

洋々と 伸びのびと 夢をかたちに



洋伸建設株式会社

代表取締役 大田満廣

本 社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
7-バンビュグラントタワー7F FAX(082)511-4521

営業所 福山・呉・廿日市・三次・山口・東広島・四国・宇部
事業所 黒瀬

建設コンサルタント（第5929号）



株式会社 和 幸 設 計

代表取締役 磯 亀 兼 吾

E-mail: isogame@wakonet.jp
HP: http://www.wakonet.jp/

本 社 〒739-2106 東広島市高屋町稲木2927-2
TEL(0824)39-0380 FAX(0824)39-0384



“高”環境づくりフジタ

広島支店／〒730-0037 広島市中区中町8-6
TEL (082) 241-4131 (代)

本社／〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-6-115
TEL (03) 3402-1911

幹事の方山さんと木村さんに感謝申し上げたいと思います。

土木工学を学んだ私たち多くの広土会会員は、市民生活の向上のための、社会資本の整備を担い、各方面で日々職務に頑張っていますが、相変わらず、国や地方公共団体の財政悪化に伴い、事業量の減少などが続き、厳しい環境が続いています。

今日、高度成長時代の国や地域の発展を支えた多くの諸先輩方が大量退職される時代を迎え、企業などの技術力を継承する人材確保は、喫緊の課題となり、若い土木技術者の確保の要請は高まっていくものと考えており、大学に私たちの後輩が多く集まってくる日も近いと思っています。

私が勤務する職場も、6年ぶりに土木技術職員が採用されました。また、これからも継続した採用がされると考えており、職場の活性化を期待するとともに、諸先輩方の高い技術力や経験を後輩たちに継承し、また学生の明るい未来に少しでも役に立つことが出来ればと思っています。



定年退職の思い

県北支部

青崎 幸彦（2期生）

私は昭和41年4月に広島工業大学土木工学科に入学し、昭和45年4月卒業と同時に五洋建設㈱に入社、最初は飯場で朝から夕方まで現場、夜はお酒、マージャン、花札等賭事に熱中し1回目の1級土木施工管理技師の試験に落ちました。2回目でやつと合格しました。

昭和50年代の田中角栄総理大臣時代は「日本列島改造」で、新幹線、道路、ダム、発電所等工事現場が、日本全国に多数ありました。景気も良く我々も良い思いをしました。私も入社以来、37年4ヶ月竹原市の工事現場を振り出しに約60カ所の現場で現場施工、施工管理、安全管理、工程管理、原価管理等仕事をして来ました。その間いろいろ思い出しますと、現場において職員と職員のトラブル、職員と作業員のトラブル、発注者とのトラブル、関係官庁とのト

ラブルそのトラブルを個々に解決しなければ、作業がうまく進行しない、トラブルの解決策として、正直に相手の話を良く聞き、精神誠意解決策を皆様と一緒に考え、全員でコミュニケーションを図り解決しました。

私生活においては、入社して8年後後給料は自分自身の小遣でなに不自由なく、毎日が独身貴族で楽しく、愉快に過ごし、結婚当初もバラ色の生活でした。その後2人の子供を授かり、最初は可愛い子供も、成長と共に小学校、中学校、高校と高学年になるにつれ、私の分身なのか、成績は悪いし、学校からの呼出しも度々ありそのつど、妻とトラブルようになり家庭内もギクシャクしました。親の出来が悪いから、子供もそうだと言われました。トンビが鷹の子供を産むことは出来ませんでした。それから、子供たちも最後の学生生活を送るようになり、教育費の出費で嫁さんとよく喧嘩しました。

子供も、定年を迎える数年前に社会人となり、夫婦水入らずになった途端に、嫁さんが病氣入院し退院したら、私も会社を定年退職になりました。

回想するに37年余り長くもあり短くもあり、波乱万丈の人生でした。退職してから、権限もなし、責任もなし、給料もスズメの涙で地場の建設会社にお世話になっています。

これから、何年生活出来るか、世の中なる様になる「ケセラセラ」今日このごろです。



卒業30年、近況と未来

県東部支部

高田 尚幸（9期生）

私は昭和52年に広島工業大学の土木工学科を卒業し、広島県福山市にあるダイホーコンサルタント株式会社という建設コンサルタントに勤務し、30年が過ぎました。

会社には現在、大学の卒業生が私を含め5名在席し、社員が少ないので「はば」を利かせています。（土木系4名、建築系1名）

私は、福山市北部の片田舎に住み、わずかばかりの田畑を耕作し、会社では測量部の責任者としてのごく普通（平々凡々）の生活を送っています。

30年を振り返ると、大したことはできていないが、ある意味自分らしく生きてこれたかな、と思っています。

自分自身の30年間にはある程度満足していますが、私の勤める会社を含め建設コンサルタント業界は、国・県等の赤字財政の影響、公共事業の縮小を受け、業績は低迷し、現在ではなかなか明るい未来が見えないところです。

一方で社会全体を見ると、地球の温暖化、台風や地震の頻発による大災害の発生、古い橋の落橋等の大事故、建築構造計算偽装問題等のモラル低下など、今までの経験を超える思いのよらない出来事が発生しています。

このような災害、事故等が発生することは不幸なことですが、ある意味ビジネスチャンスであり、建コンにとっても発想の転換をはかれば、災害防止対策等、事業拡大が可能です。

「スピーカーは電気を振動に変えているが、その逆にすれば電気が起こせる」と小学生の時にひらめき、自動車走行時等に発生する振動で発電する技術を開発している若い技術者のドキュメントをテレビで見たが、なるほど「発想の転換をはかれば、素晴らしいことができるものだなあ」と感心させられました。

私も今後の人生を含め、明るい未来に挑戦しようと、卒業後30年を過ぎて、更に気力を鼓舞しているところです。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念して終わります。

広土会会費について

平成19年度の広土会支部長会議にて、会費について審議され、下記のように変更されました。

記

- ・年会費（5年間 5千円）を支払っている会員（1～29期生）については、平成20年度から順次終身会費へ移行する。初年度は1～5期生について行う。次年度から1期ごと移行する。 以上

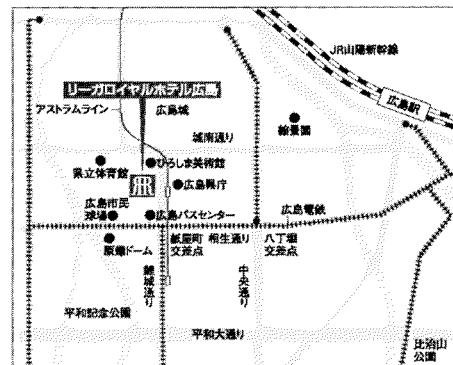
広土会40周年記念事業

- ・開催日：平成20年7月19日(土)
- ・会費：10,000円（4月末よりチケット販売）
- ・場所：リーガロイヤルホテル広島

記念講演会 17:30～18:30

記念祝賀会 19:00～21:00

☆ 1期から40期までが各期のテーブルに集まり、各卒業期の同窓会を行います！

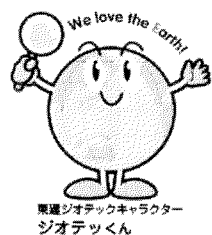


広土会40周年記念事業事務局

〒730-0011 広島市中区基町10-52

広島県土木部土木整備局ダム室（担当：吉本 賢一）

TEL 082-223-3427（直通）



建設コンサルタント

地質調査

測量

環境調査

TEL 082-299-5661

FAX 082-923-0300

株式会社 東建シオテック 広島支店

支店長 下村 直幸

731-5128 広島市佐伯区五日市中央3-10-7

明るく伸びる



株式会社

伏光組

代表取締役 伏見 幸彦

本社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33-61 TEL (082) 253-6161

FAX (082) 254-4561

支店 松江 営業所 三次・安芸高田・世羅・益田・東広島

道路埋設指針

建設大臣認定機壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール（H=5.0m）



株式会社 マシノ

本社 〒733-0822 広島市西区庚午中1-19-23 (082) 507-2757 (代)
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府270 (082) 432-4132 (代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (084) 925-8855 (代)
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1130 (083) 973-3533 (代)
山陰支店 〒695-0003 鳥取県江津市松川町下河戸188 (0855) 55-0124 (代)
水戸工場 〒699-5133 鳥取県益田市神田町口615 (0856) 25-2380 (代)
工場 広島・江津・益田